

## 活 用 技 術

平成 2 1 年度

自然分解性ポットを用いた西洋なし「ル レクチエ」の苗木生産と定植方法		
[要約]自然分解性ポットで養成した茎頂培養マメナシ苗に「ル レクチエ」を7月下旬に休眠枝接ぎすることで、苗木ほを使わずに1年早く苗木を養成することができる。定植後の枯死は発生せず、定植後1年で十分な生育量を確保することができる。		
農業総合研究所園芸研究センター 育種栽培科	連絡先	TEL 0254-27-5555 FAX 0254-27-2659

## [背景・ねらい]

本県特産西洋なし「ル レクチエ」の生理障害軽減に有効な優良系茎頂培養マメナシ台木は、深根性で植え傷みやすく、定植後の初期生育不良や枯死等の問題が生じている。そこで、自然分解性ポットを用いて、定植後の植え傷み防止を図るとともに、スピーディな優良苗木の供給を可能とする。

## [成果の内容・特徴]

- 1 穂木の準備：「ル レクチエ」の太さ4mm程度の極細い休眠枝を冬期に採取し、ポリエチレン等で包装し、接ぎ木時まで冷蔵する。
- 2 台木：直径10cmの自然分解性ポットに鉢上げした茎頂培養マメナシ苗を用いる。7月下旬時点で基部径4mm以上のものを利用する。
- 3 接ぎ木とその後の管理：7月下旬に切り接ぎを実施し、パラフィン系のテープで固定する。接ぎ木後は寒冷紗で遮光し、かん水と定期的な追肥を行う。
- 4 この方法により、苗木ほを使わずに従来よりも1年早く、台木径5mm、苗全長50cm程度の苗が生産できる(図1)。
- 5 定植方法とその後の生育：消雪後にポットのまま本ほに定植する。枯死はみられず、定植1年後に樹高は150cm以上に成長し、十分な主幹長が確保できる(図2、3)。

## [成果の活用面・留意点]

- 1 本技術はJ社製、直径10cmの自然分解性ポットを用いた結果である。
- 2 試験実施時の接ぎ木後のかん水は1日4回、追肥はIB化成を7～9月に1ヶ月1回、1ポットあたり3粒を施した。定植後は3日以上晴天が続く場合に5月までかん水を行い、追肥はIB化成5粒を3～7月にポットの回りに施用した。
- 3 7月までに台木径が4mmに達しないものは、不織布ポットを利用した苗木養成に用いることができる(平成20年普及技術『不織布ポットを利用した西洋なし「ル レクチエ」の苗木生産と定植方法』参照)。
- 4 降雪前に定植する場合は雪害や、野鼠等の被害防止のための雪囲いを徹底する。
- 5 本技術のマメナシ台木は新潟園試選抜系統N-1、N-7系統を用いた。マメナシの茎頂培養による増殖方法は、昭和63年普及にうつす技術「マンシュウマメナシの茎頂培養による大量増殖法」に準じる。

[具体的データ]

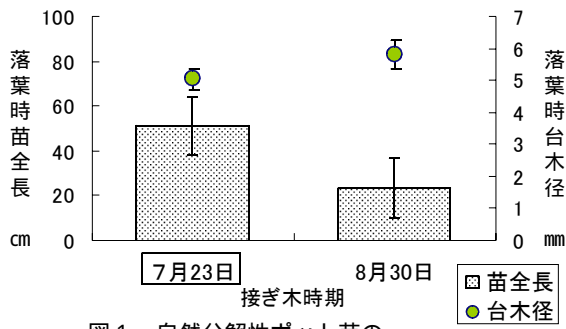


図1 自然分解性ポット苗の接ぎ木時期と苗の大きさ (2007年休眠枝接ぎ、図中のバーは標準偏差)

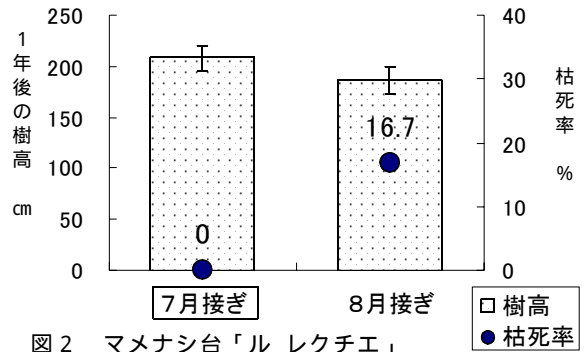


図2 マメナシ台「ル レクチエ」自然分解性ポット苗の定植後の生育 (2007年休眠枝接ぎ苗の2008年の生育データ、図中のバーは標準偏差)

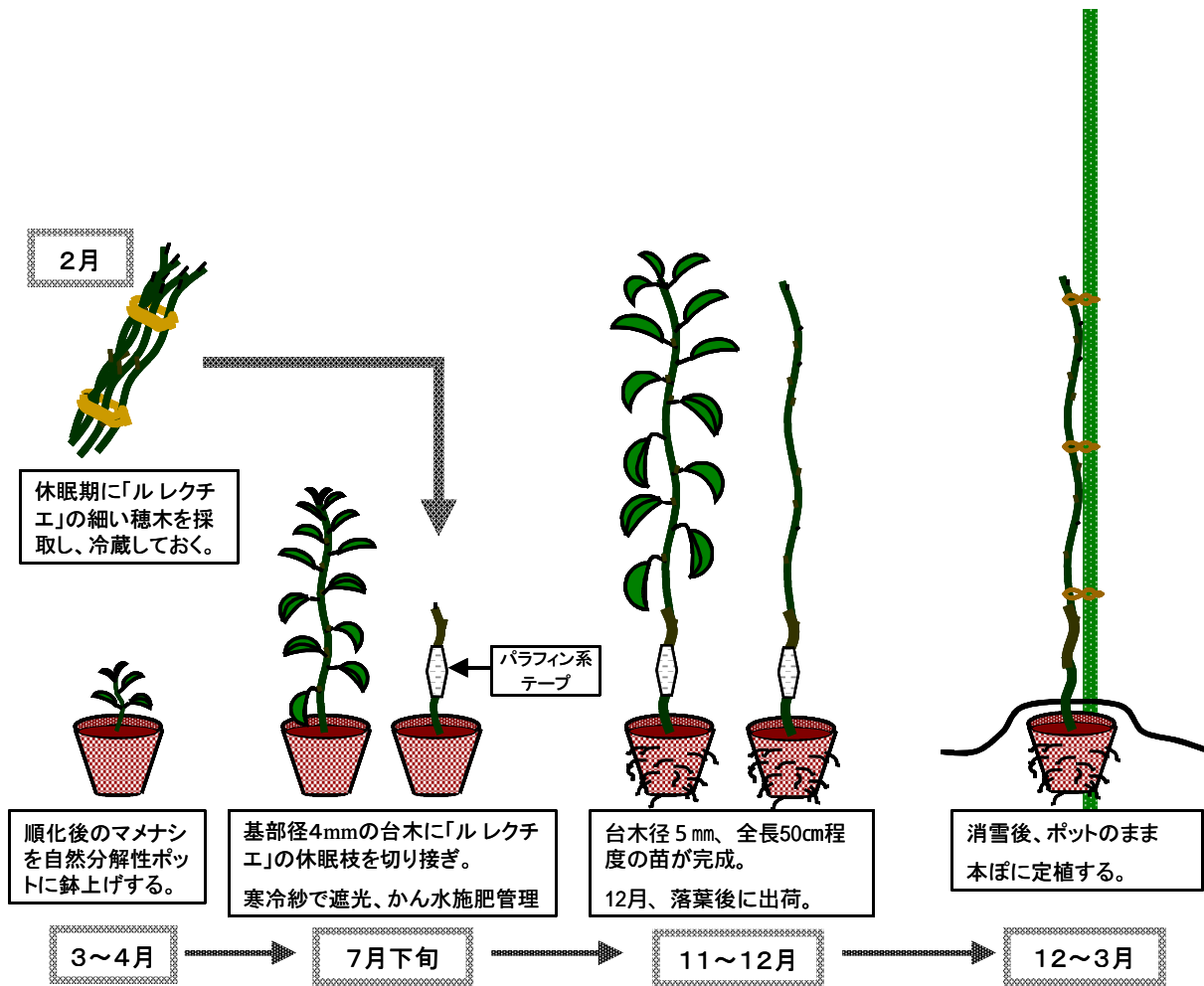


図3 自然分解性ポットを用いた「ル レクチエ」優良苗木生産の流れ

[その他]

研究課題名：北陸の気象・重粘土壌条件下での高商品性省力果樹栽培技術の開発

予算区分：公募（実用技術開発事業）

研究期間：平成17～20年度

発表論文等：なし